

岸田文雄政権は、年末に予定する「国家安全保障戦略」など安保関連3文書の改定に向けた作業を急ピッチで進めています。その最大の焦点である「反撃能力」（敵基地攻撃能力）の保有をめくり、岸田政権が、米国製の長距離巡航ミサイル「トマホーク」の購入を米政府に打診していることが分かりました。岸田首相は「反撃能力を含め、あらゆる選択肢を排除せず検討する」と繰り返し、議論を明らかにしていません。トマホーク導入の動きは、敵基地攻撃能力の保有を先取りし、既成事実化する重大な動きです。

戦争の火ぶたを切る

トマホークは米軍が保有し、遠く離れた地上の目標を攻撃する精

主張

トマホーク導入

密誘導ミサイルです。イージス艦や原子力潜水艦から発射されま

「精密誘導」とされるものの、誤爆によって軍事施設だけでなく、民間地にも着弾し、罪のない一般市民も犠牲になってい

速やかに敵基地攻撃の態勢を取るのが狙いです。トマホークは、海上自衛隊が保有するイージス艦のミサイル垂直発射装置を改修すれば、運用可能になるとされます。

抗し日本が敵基地攻撃能力を持たば、軍事緊張はいっそう激化します。メディアも、長距離巡航ミサイルの保有について「いくら反撃のためだと主張しても、周辺国に先制攻撃の意図を疑われ、軍拡競争に拍車をかけかねない」（「東京1日付」と警告しています。

常軌を逸した軍拡への大暴走

991年の湾岸戦争です。米国による2001年のアフガニスタン報復戦争や03年のイラク侵略戦争でも攻撃の第一撃として使用され、米軍横須賀基地（神奈川県）を母港にするイージス艦からも発射されました。文字通り、戦争の火ぶたを切る兵器です。

「12式地对艦誘導弾能力向上型」の実戦配備が26年度になる見通しだからです。防衛省は、同ミサイルの射程を1000キロ程度に伸ばすとともに、地上からだけでなく、艦船や航空機からも発射可能にしようとしています。それを待たずに、

マホークの搭載も視野に入れると報じられています（「読売」10月29日付）。敵基地攻撃能力の保有に向けた異常な暴走というほかありません。

敵基地攻撃能力の保有は、集団的自衛権の行使を認めた安保法制の下、米国が戦争を始めれば、日本は攻められていないのに、自衛隊が米軍とともに相手国を攻撃する危険を著しく高めます。それは日本への報復攻撃を呼び込むことになりません。こうした企ては何としても止めなければなりません。

報復攻撃を呼び込む

「実験艦」を新造する方向で調整に入り、実戦配備に進めば、トマホークの搭載も視野に入れると報じられています（「読売」10月29日付）。

敵基地攻撃能力の保有は、集団的自衛権の行使を認めた安保法制の下、米国が戦争を始めれば、日本は攻められていないのに、自衛隊が米軍とともに相手国を攻撃する危険を著しく高めます。それは日本への報復攻撃を呼び込むことになりません。